

仕合わせの和

第238号

令和4年1. 1
(毎月1日発行)

明けまして

おめでとございます



昨年は二カ月に亘る人生初の長期入院生活でいろんなことを考え直す良い機会になりました。檀信徒の皆様方には大変なご心配をお掛け致しましたが、お陰様で元気に過ごしておりますのでどうぞご安心くださいませ。

又、先月(十二月)には恒例の「第十四回冬至水行祭・ほしまつり」の時にも皆様から病み上がりの身体だから「止めて下さい」と心配の余りの温かい言葉を頂戴しましたが、こういう時にこそ、鬼子母神様はじめ諸天善神様のお守りのお陰を頂いているのですから御報恩謝徳の意味と、檀信徒皆様方の身体健全を祈り、かぶらせていただきます。いつもより心身ともに晴れやかな気持ちになり、感謝の一言でありました。

昨年は小学一年生(86歳の県内外から一般参加者122名が、一年の心の垢を洗い流し新しい年を迎える準備の水行でもあります。

特に昨年は車いす(障害者)で滑川市から初めての参加、堀田良明(会社員58歳)さんがひときわ注目され、多くの取材陣が連なっていました。

真成寺ホームページ



玉蓮山 真成寺

編集部 谷川久仁子
TEL・FAX 0765-22-2268
携帯 080-3744-2523
こちらの番号でもお寺につながります。

堀田さんは23歳の時、右大腿部から下を切断されましたが、車いすバスケット、車いすテニスなどに励み、積極的に社会に出ておられ、昨年の東京パラリンピックで銀メダリストの県内選手宮島徹也、岩井孝義(魚津市)の両選手が所属する県車椅子バスケットボールクラブのメンバーでもあります。

堀田さんは、前年度の水行を初めてご覧になり、大変感動されたそうです。そして、「来年は是非自分も被らせて頂きたい。被らなければならぬ。」と言う不思議な縁を感じられたそうです。「自分にはコロナの終息と皆さんの健康を祈るのみだった。すっきりさわやかな気持ちになりました。来年も是非参加させて下さい。」と笑顔でこたえられていました。

なかなか出来ない事であります。障害があっても、色々な場所に積極的に出るといふ勇氣に心を打たれ、堀田さんの益々のご発展を祈り合掌申し上げます。

末尾になりましたが、今年一年皆様

方にとりまして、最良の年でありますよう、心からご祈念申し上げます。お祈り。

合掌 住職 谷川寛俊

人生の輝きは 一瞬の輝きの積み重ね